

平成27年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	附属特別支援学校における研究の成果を全国へ発信する取組(3)
事業実施代表者名	校長 小栗祐美
実施附属学校名	北海道教育大学附属特別支援学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>当初は、①学会への参加、発表 ②大学と連携したプロジェクトや研究フォーラムの実施 ③附属札幌小中ふじのめ学級との研究交流 ④学部案内、入学者募集ポスターの制作および配布 を事業内容と考えていたが、予算執行停止の影響で、①と③と④については別経費で実施し、本年度実施できなかった計画については、次年度以降に引き継ぐことにした。</p> <p>①本年度も、平成27年7月に北海道教育大学札幌校で行われた第10回北海道特別支援教育学会及び平成27年9月に仙台市で行われた第53回日本特殊教育学会において、別経費で、本校の研究や大学と連携した「現職教員のための臨床研修会」の様子をそれぞれポスター形式で発表し、本校の研究や取り組みの成果を全国、全道に向けて発信した。</p> <p>②例年実施の公開研とは別の形で、平成28年1月9日(土)に本校研究フォーラムを実施した。研究テーマは、「北海道の特別支援教育の授業力を考える～子どもたちがわかる・できる・楽しむ授業を目指して～」とし、全道の特別支援学校や特別支援学級を対象にアンケート調査を実施、分析し、研究報告として発表し、本学札幌校、釧路校、函館校の先生方にもご協力いただき、シンポジウムとテーマ別セミナーを開催した。半日日程ではあったが、150名を超える参加者があった。</p> <p>③附属札幌小中ふじのめ学級との研究交流 本年度は別経費で、平成27年11月20日(金)にふじのめ学級の研究大会に参加し、本校の研究の取り組み等をポスターにて発表した。平成28年1月9日(土)に行われた本校の研究フォーラムでは、ふじのめ学級の研究をポスターにて発表をしてもらった。</p> <p>④学部案内、入学者募集ポスターの制作および配布 本年度も広報企画部が中心となり、学部案内を制作し、本校入学希望者、学校見学者、教育関係者に配布した。また、入学選考に関わり、入学希望者の増加を目指し、入学者募集ポスターについても本校の各学部の特色を入れて興味や関心を引くように制作し、関係機関に配布した。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<p>①特別支援学校についての評価は、文部科学省の施策を先導的あるいは実践的に行うほか、学会等で発表することで、その評価を受けるという面も多くある。本年度も可能な限り、日本特殊教育学会と北海道特別支援教育学会へ参加し、ポスター発表等で本校の研究や実践を広く全国、全道へと発信することができた。参加された方々からいただいた多くの意見や指摘、感想は、今後の本校の研究や取り組みを継続、発展させるために不可欠である。また、学会に参加して、他の発表を多数見聞きし、様々な情報を本校に持ち帰ることにより、今後の本校の研究テーマの方向性を示唆してくれるものと確信している。課題は、次年度以降も学会への参加を継続させ、研究の成果や取り組みを引き続き広い地域へ発信していく必要があることであり、そのためにも研究予算の確保を継続させていただきたい。</p> <p>②本年度実施した研究フォーラムは、本校の研究の新たな方向性を示唆してくれたものとする。北海道唯一の附属の特別支援学校として、北海道の特別支援教育の課題を明確にし、それを本学函館校のみならず、札幌校や釧路校の先生方の協力を得て、シンポジウムやテーマ別セミナーという形で、地域へ発信できたことは有効であったと考える。参加者からも今後への期待が多く寄せられていた。課題は、今回アンケート等で得られた北海道の課題をどのように本校の研究と結び付け、さらなる地域への発信を続けていくかということである。</p> <p>③附属札幌小中ふじのめ学級との研究交流を、本年度も互いの研究会等でポスター発表をとおして行えたことは、附属の特別支援学級や特別支援学校がどのような研究を行っているかをそれぞれの地域で発信することになり意義が大きかった。本年度は実現できなかったが、日常の交流を通じて、共通の研究テーマを模索できるように今後も継続していき、それを実現させていくことが課題である。</p> <p>③学部案内や入学者募集ポスターを刷新し、配布先を多くしたことは、結果として、本年度も本校入学希望者増加に寄与できたと考える。次年度以降も本校への入学希望者を増やすための一つとして、この取り組みを継続していく必要がある。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>本校の任務や本学の中期目標・中期計画の実現へ向け、大学との連携をさらに強め、引き続き本校の研究や取り組みを全国、全道、地域へ発信していくことは重要であり、附属学校の重要な役割として期待されている。そして、その内容については先導的であり、地域のニーズに応えられるような具体的かつ実践的なもの</p>

	<p>でなくてはならない。そのためにも学会等への参加や発表、ふじのめ学級との研究交流等を推進し、本校教職員の資質や能力の向上に結び付け、それを地域に還元することで、地域の教育力の向上に寄与していきたい。また、広報活動等にもさらに力を入れ、小学部、中学部、高等部の教育についても、その一貫性を重視した学部案内等を充実させ、本校入学希望者増加への様々な取り組みにつなげていきたい。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>本校ホームページにて、研究フォーラムの概要を掲載準備中。函館新聞(1/11)及び北海道通信(1/14)に研究フォーラムの様子が掲載。 その他、研究の外部発表への取り組みと入学案内において志願者の状況を随時掲載。</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。